

第30回国際測量者連盟（FIG）総会および作業週間出席報告
（2007年5月13－17日 in 香港特別行政区：中華人民共和国）

日本測量者連盟総幹事 石原正男

1. 会議の概要

第30回国際測量者連盟(FIG)の総会および作業週間が、2007年5月13日から17日の間、中華人民共和国、香港特別行政区で開催された。ホスト機関は香港測量師学会であった。

昨年、FIG 総裁の改選が行われ、新しい総裁（ステイグ・エネマーク教授：デンマーク）のもとに開かれた最初の総会および作業週間であった。今回の香港会議でのスローガンは、測量事業の戦略的統合（Strategic Integration of Surveying Services：同心共策測量服務）というものであった。これは、ステイグ・エネマーク総裁のオープニング・スピーチによれば、FIG が様々な文化を持った測量技術者の間に橋を架け、様々な測量の分野の間に橋を架けることを役割としていることと深く結びついているスローガンであるということであった。

本会議への参加人員は会議最終日までに参加登録のあった者だけを数えて世界64カ国から518名であった。日本からの参加は、日本測量者連盟から総幹事石原正男、第1分科会委員長長木村幸吉氏の2氏、国際航業株式会社から津田 馨氏の計3名であった。

おおよその日程は次のとおりであった。

- 13日（日） 総会、歓迎レセプション
- 14日（月） 開会式、基調講演Ⅰ、テクニカルセッション
- 15日（火） 基調講演Ⅱ、テクニカルセッション、基金晩餐会
- 16日（水） 基調講演Ⅲ、テクニカルセッション、晩餐会
- 17日（木） 各国協会長懇談会、総会、閉会式

このほか、企業展示、テクニカルツアー、ソーシャルツアーが適宜催された。企業展示における出展企業数は15社余りであり、地上測量機器の展示がトリンブル、ライカ、トプコン等の5社、GIS,CAD 関連ソフトの展示がエスリ(ESRI)等の10社余りであった。日本からの出展企業はトプコン、ソキア、ニコンの3社であった。

テクニカルセッションは、正味3日間弱の期間の中で60セッションが、毎日8セッションの併行開催という形で開かれ、全体で275編の論文が発表された。

2. 総会について（議事録の全文は <http://www.fig.net/admin/ga/2007/minutes.htm> 参照）

前回ミュンヘンでの総会は総裁、副総裁の選挙、4カ国の候補が挙げられた2011年の総会および作業週間の開催地の選挙があり、議場はあわただしい雰囲気にも包まれていたが、今回の総会ではそうした選挙は一切無く平穏な雰囲気でも議事が進められた。

今回の総会で決定された最も重要な案件は、2007年から2010年までのFIG作業計画と、分科会作業計画である。これらの全文については、上に挙げたウェブの中からダウンロードすることができる。

以下、総会の議事の主なものについて必要なものについては注釈を入れながら紹介する。

<総会の議事内容の概要>

- 点呼・・・13日は48、17日は47各国協会代表の出席
- 会員事項・・・会員協会として、ルーマニア民間測量者協会を承認。準会員協会として、タジキスタン土地管理測地測量庁、ノルウェイ Staten kartverk を承認。企業会員として USA ベントレーシステム・プラチナメンバーを承認。学術会員として、中国土地不動産管理局中国れんみん大学公共業務校、ベルギー建設局レオナルド・ダヴィンチ校、ベルギー・ジェオマティックス・リーグ大学、ロシア土地利用計画国立大学が加入したことを報告。
- 名誉会員・・・前総裁、ドイツのホルゲル・マゲール教授を名誉総裁に任命した。
- 総裁報告・・・新総裁、ステイグ・エネマーク教授の報告であるが、全文は先に挙げたウェブに掲載されている。極簡単な概要は次のとおりである。

『今回は、総裁公選制になってからの初めての総会であり誇りに思う。“容量・力量を築きあげる”(Building the Capacity)ということ、幹部評議会全体を貫くテーマとした。ミュンヘンでの総裁立候補のとき述べたが、「われわれは、高く飛び、同時に地に足を着けて進むべきだ。つまり、FIG は、グローバルな問題に取り組むとともに、一介の測量屋としての職務について念頭に置いていかなければならない。」FIG のメンバーは100を超え、喜ばしいことであるが、インド、中央アジア、ラテンアメリカの幾つかのメンバーを欠いており、さらにメンバー獲得に向けて頑張る必要がある。国連、世界銀行等のパートナーと今後とも連携していく必要がある。特に、国連人間居住計画(UN-Habitat)の貧困軽減のためのアジェンダに協力していくための作業委員会を FIG に設置したところである。』

○ FIG 基金会長報告

2006年の基金交付者およびタイトルは次のとおりであった。

パラマ・アナダン氏 (インド) : タミルナドゥの色々な地域における測量原理の教育ボランティア組織

キャサリン・カリーク氏 (ケニア) : 土地評価と女性の財産権利における HIV/AIDS の影響

ガネッシュ・プラサド・バッタ氏 (ネパール) : ネパールの地籍測量にみる土地抗争の研究的及び法的側面

2006年の、基金の交付額の総計は6,938ユーロであった。

2007年の基金への応募の締め切りは2007年8月30日までである。2007年の交付金額は20,000ユーロである。

○ FIG 作業計画2007-2010

FIG は、この期間、“容量・力量を築きあげる(Building the Capacity)”を全体的なテーマに掲げる。Building the Capacity は、発展途上国の貧困の軽減、持続ある将来、測量および土地管理の分野の発展のために必要である。この事を念頭に FIG の作業計画は次の事項を課題として対処する。

- ・ FIG の役割を推進、向上させる・・・別紙「国際測量者連盟の目的、目標および使命」参照。

- ・ 会員協会との対話をひきつづき向上させる
 - ・ **FIG** を真にグローバルな組織へと推進する
 - ・ ミレニアム発展目標（国連による Millennium Development Goals:MDG）に対応する
 - ・ 会議の構造を改善する
 - ・ 分科会諮問委員会（ACCO）および分科会の活動を強化する
 - ・ **FIG** 事務所の事務の執行と経費を支える
- 国連および世界銀行との協力
 - 国際組織との連携
国際科学会議(ICSU)、国際標準化機構(ISO)、国際評価標準委員会(IVSC)等との協力覚え書き等を承認した。
 - 2012年 **FIG** 作業週間開催地の決定
イタリア、ローマで開催することを決定。
 - 2007, 2008, 2009年の会費
2007年会費：4,000名まで一人あたり3,90ユーロ
2008年会費：同4,02ユーロ
2009年会費：同4,18ユーロ
 - 分科会作業計画2007-2010
各分科会の作業計画は先に掲げた議事録全文のウェヴの付録として掲載されている。
 - 各国協会長懇談会
49人が出席し、そのうち38人が各国の会員協会の会長（またはその代理）であった。まず、エネマーク総裁から、**FIG** と各会員協会間の良好な協力関係の必要性について強調する挨拶があり、慣例により出席の各国会員協会会長等一人一人からの意見が述べられた。エネマーク総裁から、意見の焦点として次の事項が挙げられた。
 1. 会員協会それぞれの中の個人会員に対するサービスを如何にしたらよいか、また、それらの人に如何にしたら **FIG** の活動に参画してもらえるか。
 2. 各会員協会は、如何に国連ミレニアム発展目標(MDG)の実現に対して統合できるか。
 3. 2007年から2010年までの **FIG** の活動計画の実行についての課題等の提案。
 4. その他、香港作業週間に対する意見等。

石原からは、JFSのメンバー構成、香港作業週間では若い技術者の

テクニカルセッションへの参加が目立ち FIG の将来に光明が見えてきたこと、論文発表数が多すぎもう少し絞ってもいいのではないかとの意見等を述べた。



(各国協会長懇談会)

○ 2008年、2009年、2010年、2011年、2012年、作業週間および大会開催地の決定

以下のとおり決定された。

2008年：スウェーデン、ストックホルムー6月14ー19日

2009年：イスラエル、エイラトー5月3ー8日

2010年大会：オーストラリア、シドニーー4月9ー16日

2011年：モロッコ、マラケシ

2012年：イタリア、ローマ



(総会風景)

3. 開会式、閉会式について

開会式はテクニカルセッションが始まる5月14日（月）に行われた。香港または中国に伝わる獅子舞の後、国土資源省副大臣で中国国家測繪局長の Lu Xinshe 氏、レイモンド・チャン会長の Hak Chan 氏および FIG 総裁ステイグ・エネマーク氏から歓迎の挨拶があった。

FIG 総裁の歓迎挨拶では「巨大都市の挑戦－容量・力量を築き上げる(The Mega City Challenge－Building the Capacity)」と題して次のようなことが話された。

『土地の権利、規制、責任を管理する国家的な力量(Capacity)は成熟した制度、必要な人的資源と技術および経営的、技術的スキルという面ではあまり発達しているわけではない。この観点からして、力量の構築という概念は、これらの必要性に対しての力量の必要度を分析、評価するガイダンスを提供することになる。

2005年、国連のアナン事務総長によって宣言された、「われわれは安全をなくして発展を謳歌することはできない、われわれは発展をなくして安全を謳歌することはできない、そしてわれわれは人権の尊重なくしてその双方とも謳歌できない。これらのことが全て発展しなければ、われわれの成功はない。」という言葉があるが、測量技術者は発展という分野で非常に大きくかかわっている。

われわれの使命は、巨大都市の巨大な挑戦にかかわっているし、また都市と地方の相互関係を理解し促進することにかかわっている。』



(開会式の獅子舞)



(閉会式での香港からスウェーデンへの
FIG 旗の手渡し)

閉会式は、5月17日（木）の総会の後に開かれた。閉会式では、今回の開催地であった香港の代表から次回（2008年）の開催地であるスウェーデンの代表へ FIG 旗が手渡された。また、ステイック・エネマーク 総裁から「ミレニアム発展目標(Millennium Development Goals:MDG)と地球規模のアジェンダに対する FIG の役割」と題する講演が行われた。この講演では次のメッセージが述べられた。

『国連ミレニアムサミット2000では、2015年までに貧困、飢え、環境保全等との闘いに対する目に見える形での目標が立てられた。

測量、地図作成、空間情報管理、地籍および土地管理は貧困の軽減と持続ある発展に基礎を与える。

FIG は、世界銀行および国連人間居住計画(UN-Habitat)と密接な連携をとりこれらの地球規模の課題に寄与する。』

4. テクニカルセッション

テクニカルセッションは5月14日から16日の3日間にわたり開かれた。セッションの構成は、3日間それぞれの冒頭に基調講演（共通セッション）が置かれ、その後8つの会場で各分科会担当の技術発表が同時に行われるという形がとられた。これは毎年、通常の FIG 作業週間ととられる形と同じである。

4. 1. 基調講演について

3日間にわたり、次の基調講演がなされた。基調講演では、香港または中国における土地・不動産の管理の発展の歴史、現状と今後の課題について紹介されるとともに、地球規模の課題への対処、土地の管理と行政のありかたについての発表がなされた。

(14日)・「地球規模に広がった市場に対する地球規模の専門的意見」：Dr.Leung Chun Ying、香港行政評議会非公式メンバー

・「ミレニアム目標と地球規模のアジェンダに対応する FIG の役割」：FIG 総裁 Prof.Stig Enemark、デンマーク

(15日)・「行政が都市を創る－地方行政を振興させることで学んだ教訓」：前 FIG 総裁 Prof.Holger Magel、ドイツ

・「都市のユーティリティの管理－技術的側面」：Mr.Albert Leung、香港中国ガス・エンジニアリング・システム・マネ

ージャー

- ・「巨大都市における土地市場と不動産鑑定的发展－香港の経験」：Mr.Tony tse、元香港測量師学会会長
- (16日)・「土地管理における良好な行政」：Keith Bell、世界銀行
- ・「災害の危機管理－測量技術者の貢献」：Prof.Theo Koetter、ドイツ
 - ・「中国における測量と地図作製の发展」：Xiao Ping、中国測繪局上海支局次長

4. 2. 各テクニカルセッションについて

各分科会（複数の分科会の共同によるものもある）の担当で60セッション、275編の論文発表がなされた。ただ、8会場での同時開催であるため、日本のように少人数での代表をもってしてはセッションの全容を捉えることは難しい。出来うれば、日本も西欧や一部のアフリカ諸国のように10人以上の多人数での参加が望まれるところである。論文のプロシーディングは、FIGのホームページ、<http://www.fig.net>の第1ページ FIG 作業週間および第30回総会の記事のProceedingの箇所をクリックすれば得ることができる。

分野別の発表論文数の順位は次のとおりであった。

| | |
|----------------|-----|
| 1. 地籍測量と土地の管理 | 60編 |
| 2. 空間情報（地理情報） | 55編 |
| 3. 測位と測定（測地測量） | 37編 |
| 4. 不動産管理 | 22編 |
| 4. 測量専門職の実務 | 22編 |
| 6. 応用測量 | 20編 |
| 7. 建設経済・経営 | 17編 |
| 7. 測量教育 | 17編 |
| 9. 水路測量 | 14編 |
| 10. 空間の計画・開発 | 11編 |

私は主として空間情報と測位と測定の中のGNSSについての発表を視聴した。空間情報では、殆どが応用事例の発表であったがビル管理、森林の熊の管理といった特異な事例もあった。GNSSでは、未だ連続観測点の全国展開の実状を述べるもの、データ取得に当た

っての基礎的な品質管理についてのものが多かったが、RTK-GPSの精度をやや細かく分析した先進的な論文発表も見られた。

5. 所感

香港の街は九龍半島の突端と香港島の北部海岸域に二分される。しかし、九龍半島と香港島では街の様相が全く異なっている。九龍半島の方は、食品店や衣料品店等の雑多な店が所狭しと雑居する、日本でいえば御徒町のような街である。さらに御徒町と違うところは極彩色の店の看板が店の入り口の上だけでなく道路を横断して架けられており、いわば人にけばけばしい感じを与える街である。一方、香港島の方はオフィスやマンションの現代的な高層ビルが立ち並ぶ、いわばスマートな街である。明らかに九龍半島の方と比べれば、リッチな感じのする街である。この二つの対称的な風景は一見、香港という都市の複雑さ、ある意味では魅力を醸し出しているのかも知れない。しかしまた、このことは香港とは一方で金融に代表されるペーパーカンパニー、他方で商店による消費経済のみが行われている、いわば地に足のついた生産活動が行われていない軽薄な都市であるとも私には映る。FIG 総裁のステイグ・エネマーク教授は「高く飛ぼう、ただししっかり足を地につけて。」と、FIG 総会で挨拶した。この言葉は、グローバル化する測量関係事業が声高に叫ばれる今日にあって、しっかりと身の回りの測量事業も見直していこう、という意味合いを持った示唆に富む言葉だと思う。香港という都市は高くは飛んでいる、しかし果たして地に足がついている都市であろうか、と私は訝った。

FIG の会議は、新しい総裁になっても相変わらず民主的、友好的に自由な雰囲気の中で行われた。テクニカルセッションでの発表論文の質は全体として必ずしも高いものとはいえない。しかし、発表に対する質問や意見の交換は活発であり、論文そのものより論文発表の場の質を高めている。国際交流が生き活きと行われているのである。

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|



(九龍半島側の街)



(香港島のビル群)

国際測量者連盟の目的、目標および使命

(2007年 FIG 総会、議事「FIG 作業計画 2007-2010年」で採択)

1. 目的

FIG の目的は、世界中の測量技術者および測量事業のユーザーの関心事について、代表してそれを取り扱う国際的に最高の非政府組織となることである。また FIG は、優れた測量事業を追究する会員協会からなる連盟組織である。

2. 目標

連盟規約で定義する目標は、

1. 測量に関する情報交換、測量技術者間の交流を促す国際的なフォーラムを開催すること、
2. 土地および海洋資源の利用、開発および管理に影響を与える政策の立案や実施において国際連合および他の国際的、地域的行政体と連携をとること、
3. 特に経済的に途上にある国々を発展させる意味から、測量の技術的研鑽を振興させること、
4. 天然および人工的な環境の管理における測量技術者の役割を高めること、
5. それぞれの国の測量技術者協会の発展を振興させること、また測量技術者個人個人の職業人としての倫理を高め取引の標準化と規約化について促進すること、
6. 測量技術者のための教育と訓練について高い水準のものを振興させること、また継続職業能力開発(CPD)を促進すること、
7. 適切な技術の開発と利用を奨励すること、
8. 測量のすべての分野における研究を奨励すること。

3. 使命宣言

国際測量者連盟の使命は、測量のすべての分野およびそれらを実施するすべての者が、それらがサービスを提供する市場および社会のニーズに見合

っていることを確証してあげることである。